

1 教えて！筆のこと

今号より、新連載「書写の用具研究」がスタートします。書写の時間に使う用具を、毎回一つ取り上げ、書道用具店の方にお話を伺うシリーズです。第一回は、清雅堂（東京都・千代田区）にお邪魔し、店主の廣瀬保雄さんにお話を伺いました。

1 穂の長さ・太さ

——わあ、筆がたくさん並んでる！こんなにいろいろな種類があるんですね。筆にはさまざまな種類がありますが、穂の長さ・太さ・材質で分類することができますんですよ。

——確かに、よく見てみると、穂の長さや太さがそれぞれ違いますね。

筆は穂の長さによって、長い順に、長鋒、中鋒、短鋒に区別されます。中鋒がいちばん扱いやすい長さなので、中学生の皆さんが書写の時間に使われているの

は、中鋒だと思います。

長鋒はちよつと扱いにくいので、上級者向けです。でも、慣れてくると、長い穂を操って字を書くのはとても気持ちがいいんですよ。

それから、穂の太さによって一号から十号まで号数をつけ、区別されています（※1）。皆さんが、普段、書写の授業で使っているのは、三〇五号あたりでしょう。小筆として使うのは七〇八号だと思います。



▲お店に入った瞬間、ずらっと並んだ筆が目に入る。

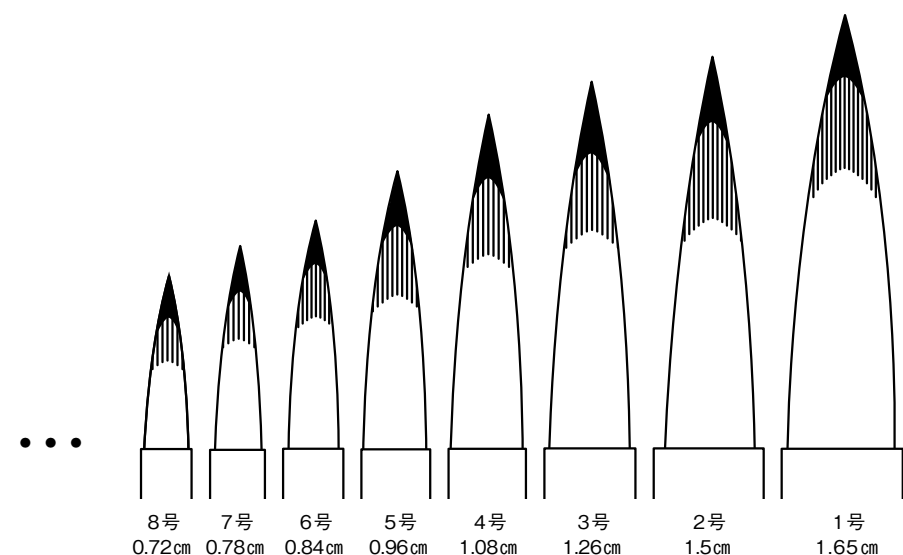
イラスト：北村ケンジ

筆について、いろいろお聞きしてきました。

創業 86 年の書道用具専門店・清雅堂へ行ってきたよ。

書写の用具研究 ①

▼※1 筆の太さ（cm は軸の直径）



筆の号数は、製造会社によって、太さが少し変わることがあるよ。

2 穂の材質

——穂の材質についても教えてもらえますか。

穂は、毛の種類によって弾力が異なり、書き味が変わってきます。剛毛筆、柔毛筆、兼毛筆に大別されます。

剛毛筆は、馬・狸・鹿などの硬い毛で作られた筆です。弾力が強く、墨含みがよくありません。ですから、楷書を書くときに向いています。

柔毛筆は、主に羊などの柔らかい毛で作られた筆です。弾力が少なく、墨含みがよいのが特徴です。柔らかい書き味なので、初心者にはちよつと扱いづらいかもしれません。行書や草書を書くときに向いています。

▼穂の材質について説明する店主の廣瀬さん。



3 筆の使い方

——お店に並んでいる筆を見ると、穂がふさふさの状態のものと、固まった状態のものがありますね。

ふさふさの状態のものを「捌き筆」、

また、兼毛筆は、硬い毛と柔らかい毛を混ぜて作られた筆です。ある程度の弾力性と墨含みがあり、楷書や行書のどちらを書くのにも向いています。

——では、中学生が使いやすい筆はどれなのでしょう。

そうですね。やはり、兼毛筆が使われるのがいいと思いますよ。剛毛と柔毛が混ざっているほうが適度な弾力があり、初心者でも扱いやすいんです。

——筆には、いろいろな動物の毛が使われているんですよ。

鼠の鬚で作った「鼠鬚」という筆もあります。穂先が利き弾力があり、書聖として名高い中国の王羲之は、鼠鬚筆を使って「蘭亭序」という傑作を残したといわれています。ただし、後世の鼠鬚筆はリスの尾の毛を使ったものです。こういう筆は専門店でないとうに入らないかもしれません。



1 毛を選別し、 整える

げんもう
原毛を選別し、強くもんで毛の脂分を取り除いた後、毛先をそろえたら、毛先の悪い毛を1本1本除いていく。毛が絡み合ったり折れ曲がったりしないよう金櫛（かなぐし）ですき、ガラス板の上で整える。



2 毛の長さを整え、 混ぜ合わせる

円錐形の穂先をつくるには、異なる長さの毛を均一に混ぜ合わせる必要がある。毛の根元を、決められた寸法ごとに切り落としうえて、ガラス板の上に並べて、丹念に混ぜ合わせることを繰り返す。



3 毛をまとめて 穂の形にする

よく混ぜ合わせて均一にした毛を、型に合わせて形を整え、ふのりを染み込ませて、穂の芯となる芯毛をつくる。天日乾燥の後、芯毛の回りに、艶のある美しい化粧毛を巻き付ける。



4 穂の根元を固める

乾燥させた穂の根元に麻糸を巻き、尻の部分のコテで焼いて、ばらばらの毛を一つにする。その後、毛の部分に櫛を通して、ふのりやほこりなどを払い落としてきれいにし、穂を完成させる。



5 穂を軸に接着し、 仕上げる

竹でつくった軸に穴を開け、接着剤を付けて穂を差し込む。穂は、しっかりと軸に固定させた後、乾燥させる。最後に、穂全体に芯までしっかりふのりを含ませ、穂の形をきれいに整えて仕上げる。

筆ができるまで

清雅堂では、愛知県豊橋市で製造された筆を取り扱っています。豊橋筆の起源は江戸時代後期にさかのぼり、その品質の高さや書き味のよさから、今日に至るまで、多くの愛用者を生み続けています。今回は、豊橋筆ができるまでの主な工程をご紹介します。



協力：豊橋市広報広聴課



▲※2 固め筆（左）と捌き筆（右）

◀筆は上海や蘇州など、中国から輸入されたものも多い。

糊で固めた状態のものを「固め筆」といいます（※2）。
捌き筆は、根本まで墨を含ませて使います。いっぽう固め筆は、三分の二ぐらいまで手でもみほぐし、水やぬるま湯につけて糊を取り除いてから使います。

4 書を好きになってほしい

——筆を買うときは、どうやって選んだらよいのでしょうか。
先ほど話したように、中学生のみならずには、兼毛筆で中鋒の三〇五号の筆が扱いやすいと思います。
でも、自分に合った筆かどうかというのは、実際に書いてみないとわかりません。もつと言えは、書いてもすぐにはわかりません。何度も書いてみて、やっと「この筆はいいな」とわかるものです。ですから、自分に合った筆に出会うのは簡単ではないんですよ（笑）。
——いつか自分に合った筆に出会えるようになりたいな。
私はこの仕事をして、五十年以上になります。幼い頃から書が大好きでした。昔は店の奥に小さな座敷があって、そこで店の人たちといっしょに、書の先生に習っていたんです。
この店は、父が昭和三年に創業したの



清雅堂

東京都千代田区神田須田町1-14
TEL：03-3256-3011 FAX：03-3256-3014
営業時間：10：00～18：30（土～18：00）
定休日：日曜・祝日

ですが、私が店を継いだのは、戦後の復興が始まった頃から。その当時は、「書を本格的にやろう」とお客さんの意気込みがすごかったんですよ。半紙を二千枚一締めで売っていたのですが、その一締めを購入して、一生懸命に書の練習をしている人がたくさんいました。活気がありましたね。
皆さんにも、ぜひどんどん書いて、書のおもしろさを味わってほしいと思います。そして、うちみたいな書道用具店に、ぜひ足を運んでみてください。いろいろな筆がありますので、見ていただいても楽しめると思います。
——ぜひ、また伺いたいです。今日は、ありがとうございました！